



WEEKLY REPORT

No.1387

<本年度クラブ会長方針>

想いを一つに



ロータリー：変化をもたらす

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 岡村隆徳 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号丸越ビル6F
幹事 春日井和良 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

<2017-18年度R.I.テーマ>
R.I.会長 イアンH.S.ライズリー

第1622回例会

平成29年7月13日(木)
委員長所見
於名古屋東急ホテル
会員 57名

出席計算数
50名中42名出席
出席率 84.00%
前々回出席率 100%

例会プログラム

- ★吉田隆彦地区大会幹事
★PR訪問参加お祝い
★柴岡青年奉仕委員長
★派遣青少年交換学生お迎え報告
★誕生日のお祝い
★委員長所見

ロータリーソング

「奉仕の理想」

指揮者 松本 哲朗
ピアノ伴奏 富板 玲子

二二ホックス

本日の委員長所見よろしくお祈り
します。 岡村 隆徳・杉本 忠夫
前田 隆久・林 順治
昨夜のゲリラ豪雨は大変でした。

春日井和良

ゴルフ例会優勝させていただきました。
メンバー(神野さんと春日井さん)と雷に助けられました。
大上 晃延

新年度 岡村会長、春日井幹事に
エールを送ります。 吉田 隆彦
何度目の誕生日か忘れませんでした！笑
7月1日は妻美香の誕生日でした。
近藤 明美

皆様より頂きましたカステラ美味
しかったです。 宇瀬 厚

会長挨拶

岡村 隆徳

今年度の挨拶のテーマは人工知
能やIoT(Internet of Things)、ビ
ックデータ、ロボット、仮想空間活
用など最近話題のワードを中心に
お話しします。今日は序章として、
なぜ今騒がれるのか、その背景を
お話ししたいと思います。

これらイノベーションといわれ
る技術革新の急速な潮流は資本主
義経済の成熟と関連があるように
です。世界には第4次産業革命にお
いて主導権を取ろうとする動きが
あります。第4次産業革命とは20
世紀初頭の蒸気機関による工場の
機械化を第1次とすると電力化の
大量生産が第2次、コンピュータ
を利用した自動化が第3次、第4
次はネットに繋がる膨大なデータ
を解析し更に仮想空間で検証した
知識を利用します。

多様性に対応した生産手法(マ
スカスタマイゼーション)や社会の共
有技術(シェアリングエコノミー)、自
動運転やロボット、AI診断などの
医療分野やフィンテックという金
融ITにも派生します。ドイツでは
5年ほど前からインダストリー4.0
というコンセプトが提唱されていま
した。タイやシンガポールでもタイ
ランド4.0などと呼ばれ、中国でも
多くの起業家が生まれアジア版シ

リコンバレーの拠点がいくつもで
きています。日本もこのままでは
他国にリードされ産業構造の変化
に対応できないと雇用も失われ、
賃金低下も招き、税収不足で財政
破綻してしまいます。

内閣府は昨年日本の独自コンセ
プト「超スマート社会」ソサエティ
5.0を発表しました。人類がこれ
まで歩んできた「狩猟」「農耕」「工
業」「情報」に次ぐ第5の新たな社
会を、技術革新(イノベーション)に
よって生み出す、という壮大なテ
ーマですが、同じ方向性を別のス
トーリーで表現したものだと思え
ます。米国は早くからこの新しい
時代の基盤プラットフォームの主
導権を握っており、その脅威から
全世界の動きを起しています。

今もトレンドの大量発信が起きて
います。それもそれは、これらは
グーグル、アップル、アマゾン、マ
イクロソフト、NVIDIAなどイノ
ベーションといわれる改革を起し
す企業がリードしているからです。
今多くのベンチャー企業、スター
トアップと呼ばれる起業家、また
それを支える投資家が世界のいた
るところで活動しています。

デジタル化への移行は既に大幅
に進んでしまいました。これらの
潮流の中で早急に対応すべきレ
ンズと、いわゆるノイズを嗅ぎ分
けるのがカギとなると思います。
あらゆるものがネットにつながり、
膨大なデータを蓄積しその中の知

識の覇権争いは国の経済を左右す
ると言われています。周回遅れの
日本はそれらを使って稼ぐシナリ
才をどう作っていくか。これが今
の最大のテーマではないでしょう
か。

次回はまず現在第3次ブームと
いわれる人工知能の実態をお話し
します。

委員長所見

職業奉仕委員長 渡辺 観永

17-18年岡村年度の職業奉仕
委員会委員長の渡辺観永です。副
委員長にヘネランの木村光徳さん
委員に岡田尚彦さん、飯田昭夫さ
ん、鬼頭茂成さんを迎えた重厚な
委員会と成っています。

本年度の方針としては、ロータ
リー活動の根元たる職業奉仕につ
いて、会員個人の活動会員の所属
する会社組織の示唆、また周辺へ
の影響を緩やかに与えられるよう
に、思索を深める対話への協力を
おしめません。また実際の活動と
して次の活動を考えています。

1 職業奉仕への思索

クラブ奉仕
委員会と協力して「職業奉仕」
を深めるテーマを会員相互に
よる卓話により実施します。
また会員卓話の前置として、
職業奉仕委員会による問題提
起を行います。

2 職場例会の開催

2月大須観
音においての節分職場例会を

開催します。

3 職業奉仕の涵養

様々な職業人が集う機会としての名古屋YMCA主催チャリティーラウンジ、入会3年未満の会員を中心としたチームを派遣し、交流と学びの機会とします。

4 地区との連携

地区主催のWFFへ積極的に協力し、会員への情報宣伝参加を促します。

このWFFにつきましても、今年度神野力バナーも積極的に推進しております。(地区提供動画)ご覧いただきましたように、WFFはロータリー活動を一般の方々に広く周知していただくと同時にロータリアン自らが汗を流しつつ楽しみ、ロータリーの活動を再確認する日です。皆様には是非この日本でも稀なロータリーの一日をご家族やご友人とともに楽しみいただきまますようご案内申し上げます。なお、この寄付金付きチケットは、また皆様にご案内を申し上げます。当日会場でも購入できますが、是非クラブでも購入をお勧めいたします。

委員長所見

青少年奉仕委員長 柴崎 正将

今年度、青少年奉仕委員長を拝命しました柴崎です。所信表明とさせていただきますが、先般地区研修・協議会の報告にも申しあげました通り、本来青少年交換学生が無い前提でしたが急遽受け入れることとで少しばかり忙しくなるのではと感じております。

本来の青少年奉仕委員会は、インターアクト、ロータリーアクト、RYLAの事業と青少年交換の概ね4つの事業があるのですが、名古屋大須RCの歴史上、青少年交換をメイン行事として取り組んで参りました。青少年交換なら大須だろうといわれるまでに地区内では高浜RCと共に大御所的存在になりましたので、その伝統を今年度も受け継いで取り組む所存であります。急遽の受け入れには予算的措置も頂きましたので問題ないものと思われまます。当人は、8月下旬に迎えることとなりますので、ウエルカムパーティーなどには、皆様のご協力をお願い申し上げます。又、ホームステイの受け入れも必要としておりますので宜しくお願ひ申し上げます。

また、次年度の派遣に付きまして、今月21日が申し込み締め切りのとなっております。会員のご家族で志願していただくのがスポンサーRCとしても安心して送ること

ができると思っております。お子様であれ、お孫さんであれ、あるいは甥姪の方でも、この素晴らしい機会をお使いいただくことをお勧め致します。ロータリー以外の方からのお申し込みが事務局には届いておりますが、まずは子弟優先とさせていただき、次策としていかにするか、本日理事会でもご審議をお願いし、その結果で進めて参りたいと思っております。

当クラブには、地区青少年交換委員長として高木政義さんもおいでです。この伝統を絶やさないよう進めて参りたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

委員長所見

R財団・米山記念奨学委員長 山口 正孝

委員長を仰せつかりました山口正孝でございます。副委員長は佐々木功さんです。米山記念奨学担当としてお願いしております。

ロータリー財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、かつ世界理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援することです。

ロータリークラブは、これまでの長年の経緯から最も大きく持続可能な成果をあげられる6つの分野である「平和の推進・疾病の



闘い・きれいな水の提供・母子の健康・教育の支援・地元経済の成長」に重点を絞って活動しております。この仕組みを支えているのが年次基金への寄付です。「Every Pot

arian Every year」はすべてのロータリアンが毎年参加する財団活動です。世界中のいたるところで一人でも多くの笑顔の輪ができるよう年次寄付目標額1800\$達成のご協力をお願い致します。

当クラブにおいてもR財団地区補助金を使って毎年活動しており、昨年は「和ごと大須・大須大茶会、一昨年は「ストップ・ザ・危険ドラッグ」撲滅キャンペーン」を実施しました。本年度は「やさしい大須街」へのプロジェクトと題して、電動車椅子の寄贈を中心とした奉仕事業を計画しております。補助金の算出根拠は当クラブの3年前の寄付金がベースになっていることとです。3年後の事業資金のためにも会員の皆様方の寄付をお願いします。また、11月のR財団月間2000\$X5回5年を目標に特別寄付をお願いしてまいります。先輩方はよく存じて思われますが、入会間もない方に案内致します。

ちなみに、継続して100\$以上を寄付した人が財団の友会員累計1,000\$以上を寄付した人が、ポールハリスフェローとなります。すでにポールハリスフェローになった後さらに1,000\$以上を寄付した人は、マルチポールハリスフェローとなります。

恒久基金ベネファクター1,000\$以上の寄付についてですが、毎年恒例によりすでに岡村会長より寄付して頂けることになっております。ありがとうございます。また今年度は、グローバル補助金を使っている事業も計画されております。事業内容は桃園市復興区の上巴陵部落浄水システムであります。重ねてですが、今年度寄付目標額1人当たり1800\$以上のご協力をお願い致します。

「私たちは、自分のためにだけ生きるべきではありません。誰かのために、よいことをする喜びのために生きるべきです」。R財団創設者アーチ・クランフ氏が言っておられます。

7月27日(木)例会の案内

委員長所見

地区大会実行委員会

委員長 尾上 昇

公共イメージ向上委員会

大原 敏止・杉浦 令淑

*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。

